

（ 熊本県立水俣高等 ） 学校 令和3年度（2021年度）学校評価表

**1 学校教育目標**  
 校訓「自律・敬愛・創造」のもと、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって主体的に行動する力を備えたグローバルリーダーの育成をめざす。  
 そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命感と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。  
 教育スローガン：「気づき、考え、動く」～One Small Step～

**2 本年度の重点目標**  
 (1) 健全な心身の育成  
 (2) 確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実  
 (3) SGH事業の効果的な継承とグローバルリーダーの育成  
 (4) 保護者や地域社会に信頼される学校づくり

**3 自己評価総括表**

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目						
学校経営	特色ある学校づくり	SGH事業の効果的な継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究指定期間の5年間の成果と知識財産を効果的に継承し、グローバルリーダー育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの「水俣ACT I」の活動内容を継承しながら総合的な学習【探究】の時間について体系的に実施できるカリキュラムを確立する。</li> <li>これまでの「水俣ACT II」で行ってきた外部組織との連携事業について、地域課題研究に関連する事業を継承・推進する。</li> <li>これまでのSDGs活動を生かした進路研究を進める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みなまたベーシックプログラム」（1年）として、水俣学・自己発見・探究基礎各学習カリキュラムを確立した。</li> <li>「みなまた山、川と海をつなぐアクションプログラム」と「みなまた学校・まちと世界をつなぐアクションプログラム」（共に2・3年）として、普通科の『総合的な探究の時間』と専・工業各科の課題研究の中で継承できている。</li> <li>進路選択時にそれまでの探究活動を十分に生かせなかった。</li> </ul>	
	開かれた学校づくり	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会や学年保護者会の充実を図るとともに周知の機会を増やし保護者の出席率を高める。</li> <li>地域、近隣小中学校へ本校の魅力の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会や学年保護者会の充実を図るとともに周知の機会を増やし保護者の出席率を高める。</li> <li>地域行事に積極的に参加するとともに小中学校での学習指導等を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会は、安心メールで周知し、書面審議した。後日、本部役員会を開催し、質疑応答の報告をした。年度末の2学年保護者会では、オンライン開催とし、コロナ禍の中で工夫を重ね実施した。</li> <li>電気建築システム科建築コースで、近隣小中学校へ出前授業を行い、本校の魅力発信に努めた。</li> </ul>	
			学校公開と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なPR活動による入学者の増加</li> <li>公開授業への外部からの年間15人以上の参観と、中学生へのアピール力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPを、中学生の高校選択の調べ学習に活用できる内容に充実させて更新の頻度を上げる。また、各種取組をマスコミに対し積極的にPRする。</li> <li>学校行事や公開授業について保護者、地域への周知を市報の活用を含め積極的に行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の活動自体が活発化し、HP更新に努め、26%の閲覧数増となった。また、新聞や市広報紙でPRに努めた。</li> <li>コロナの関係で入校制限をしたため、外部の参観等は難しい状況であった。公開授業週間ではないが、学年保護者会等を絡めた授業参観はたくさんの保護者が参観したため、おおむね目標は達成した。</li> </ul>
		業務改革	業務改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の効率化と情報共有、生徒と向き合う時間（面談、個別指導）の確保と充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌の業務を精選して1割削減し、生徒と向き合う時間を確保し、指導の充実を図る。</li> <li>報告、連絡、相談を徹底し、風通しのよい職場づくりと明るい人間関係を築く。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、いくつかの学校行事が中止、縮小、リモートでの実施となった。一人1台端末整備により、端末を通してのコミュニケーションを図ることができた。</li> <li>職員間の報告、連絡、相談は比較的良かった。職員間のコミュニケーションもしっかりと取れており、概ね明るい職場環境であった。</li> </ul>
		授業改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のデジタル化を進め、誰もがデジタル端末を用いた授業ができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末導入を見据え、研究授業や公開授業・教科会等を活用して利用の促進や情報交換を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月の端末導入以降、校内の授業においてかなり積極的な使用状況である。11月の研究授業や他校の公開授業への参観等を通じて各教科での情報交換なども行われ、目標を概ね達成したと考える。</li> </ul>	
	働き方改革	時間外勤務時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」の遵守</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日を週1日は必ず設け長時間勤務の減少を図る。</li> <li>部活動の指針を遵守し、特に休養日の確実に設定する。また、月間練習計画表を作成し、計画的な部活動とする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日を設け、超過勤務時間の減少に取り組んだが、「まん延防止等重点措置」等もあり、定時退勤日の定着まではいかなかった。</li> <li>コロナ禍で活動制限が多く、十分な練習時間が確保できなかったが、各部とも少ない時間を有</li> </ul>	

						効的に使っていた。 ・月間練習計画表の提出は徹底できなかった。
学力向上	基礎学力向上	基礎学力の定着の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査前学習会実施による、学期毎に成績等に関する保護者会への該当生徒数の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度別授業や個別指導の充実を図る。</li> <li>・ 考査前学習会等を実施する。</li> <li>・ 進路部と連携し、年度当初実施の学びの基礎診断を活用し、生徒個々人の情報共有を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期期末、2学期中間・期末、学年末いずれの考査前も学習会を行った。保護者会の該当者は1学期2名、2学期は1名で減少し、おおむね目標を達成したと考える。学びの基礎診断は4月当初に担任との個人面談を行う際の重要な資料となっている。</li> </ul>
	自学力の育成	家庭学習態度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年・学科毎の目標学習時間の設定を半数以上の生徒が達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「宅習・生活の計画と記録」を活用し、担任や教科担当者の個別面談による意識向上自習室の活用を図る。</li> <li>・ 各教科による課題の工夫を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宅習時間は、教務部で学年の目標値を設定し取り組んだ。担任による個人面談等もあり、2学期の達成率は54%でおおむね目標を達成したと考える。</li> </ul>
	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開授業週間における職員の相互参観を年間一人2回とし、授業改善に繋げ、授業評価アンケートで7割以上の肯定的評価の獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開授業・研究授業週間におけるスーパーティーチャーの招聘、教員相互の授業参観を充実させる。</li> <li>・ 授業評価を活用した授業改善に努める。</li> <li>・ 研究授業の合評会においてレポートを作成し、朝会等で情報を共有する。</li> <li>・ ICTを活用したわかりやすい授業実践を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究授業に合わせて4名のスーパーティーチャーを招聘し、研修を深めた。ICTの活用が進み、授業改善に取り組む職員が大幅に増加した。公開授業週間では他教科の授業参観も多く見られ、職員間で活発な相互交流を行うことができた。1、2学期の生徒による授業評価の比較で多くの項目で向上し、おおむね目標を達成したと考える。</li> </ul>
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	進路目標の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進路学習を充実させ2年時での進路目標の確定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ WEB等で得た学校情報を比較しながら、自分にとって最適な志望校を選択できるよう支援する。</li> <li>・ 上級学校や企業、地域と連携を図り出張講義等を実施し、キャリア教育の推進を図る</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ HPやパンフレットで得た情報をもとに進路希望先のプレゼンやオンラインオープンキャンパス参加などで進路意識の向上を図った。</li> <li>・ 上級学校や企業・地域から講師を招いて出張講義やキャリアガイダンスを実施した。</li> </ul>
		勤労観・職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年以内の離職率の10%以下の達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年の全学科でしごと発見塾に参加し、また、2年生の全学科でインターンシップを行い、事前、事後指導を充実させることで、効果を高める。3年生の進路決定者に対して、早期離職を防止するために丁寧な指導を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しごと発見塾やインターンシップはコロナの感染状況により実施できなかったが、代替行事をした。3年生の進路決定者にも、合格内定後の指導を確実にし、新社会人セミナーや進路人権講話等で今後の生活に繋がる活動を行った。</li> </ul>
生徒指導	社会規範意識の醸成	正しい社会規範意識と他者尊重の意識を醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動や服装を自ら判断し、選択できるようにする。</li> <li>・ SNSや情報端末の正しい利用方法の習得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員が共通理解を持って指導に取り組む。</li> <li>・ 年6回の服装頭髪検査を実施し、検査前には時宜にかなった訓話を行う。検査基準の見直しを行い、生徒には気づき考え行動する力を育む。</li> <li>・ 講話等を通じた情報モラル教育を行う。職員にも適宜プリントを配布し、常に新しい知識で指導を行えるようにサポートをする。通年で情報モラル教育を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍でストレス抱えた生徒がいらないか心配されたが、各職員の協力もあり、特別指導件数は0件であった。校則について見直しをするなど、大きな変化の年であったため、全職員の共通理解と、生徒への指導の一貫性が難しくなった。今後も校則について見直しを検討する。</li> <li>・ いじめ、交通、規則についてなど、各講話の機会に全生徒に向け話をした。服装頭髪検査については規則の変更に伴い、検査基準なども変更し、規則に頼らないマナーの教育が必要。</li> <li>・ 情報モラル教育は、各講話で注意喚起し、職員に対して新しい知識で指導が行えるよう適宜プリント配布を行った。</li> </ul>
	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5S活動の徹底</li> <li>・ 遅刻者数10%削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導部が中心となって登校指導を行い、遅刻者の情報を担任と共有し、繰り返し返さないよう個別指導する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴミ集積場のルールを作り、分別の注意事項を職員生徒へ随時連絡することで、分別から教室美化につながった。</li> <li>・ 遅刻者については、減少は見られなかった。1年生が多い傾向にあり、特定の生徒へは連携をした声かけが必要。</li> </ul>
	防犯及び交通安全意識の高揚	防犯意識と安全運転の励行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二重ロック率99%以上および100%達成率50%。交通死亡事故ゼロ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通委員による二重ロック調査を毎日行い、結果を全職員で共有、公表し、未実施者には指導を行う。</li> <li>・ 交通講話や啓発プリントを配布し意識を高めると共に、事故時の適切な対応方法についてロールプレイを用いて習得させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>※生徒指導( )内の数字は昨年度同時期比較</li> <li>・ 二重ロックは154日調査を行った。二重ロック率は全体99.3%(-0.3)、100%達成日数は57日(+3)、昨年度の調査日数が120日のため達成率は37.0%と減ったが、毎年成果が上がっている事項であり、タブ</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>原付通学生対象の安全教育を月に1回実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レットを利用した集計の簡易化をしている。</li> <li>交通ルールやマナーに対しては、度々注意をいただいている。生徒が被害者、加害者にならないためにも継続した交通指導が必要である。</li> </ul>	
	自主性、社会性の育成	自主・自立の精神の涵養と生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒に学校行事及び生徒会行事の意識を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員と顧問とのランチミーティングを毎週水曜日に開き、生徒会役員及び庶務の意思の疎通や共通理解を密にし、絆を深めるとともに、生徒の自主性、自立性を養う。学校行事について、アンケートを実施し、結果から改善を目指す。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員、庶務を含め、28名と大幅に人数が増え、活発的に現在生徒会で活動している。今後の水俣高校の活性化に繋げていきたい。コロナ禍で短縮した日課になってはしまったが、各行事のアンケートにおいても体育大会、文化祭の満足した評価94.8%（昨年91.0%）を得られていることから目標を十分に達成できている。</li> </ul>
人権教育の推進	人権教育推進体制の充実と人権意識の深化	校内の人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習機会の定期的な設定による生徒、職員の人権感覚の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同和問題等に対する職員研修を実施する。</li> <li>人権講演会、人権LHRを実施する。</li> <li>各種校外研修会への参加を通じて職員の人権感覚の醸成を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・職員向けには計画通りにLHRや校内研修会（2回）を実施できた。人権感覚育成から行動につなげたい。</li> <li>人権啓発ポスターを掲示する特設スペースを設けた。</li> <li>各種校外研修の多くが中止となった。</li> </ul>
		水俣病等に関する人権問題の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>水俣病をめぐる人権問題についての各自の意見の発信力の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SGH継続事業と連携しながら水俣病等の人権問題学習を通じて、優れた人権感覚の育成を目指す。</li> <li>ポスターセッション等の発表準備を通じて各自の考えを深める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の状況において規模は縮小されたが、これまでの調査研究を踏まえ、発表会において自分の言葉で表現することに努めることができた。</li> </ul>
	「命を大切にする心」を育てる指導の推進	「命」や「生きる」との考察を通じた自己肯定感と他を思いやる心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員による全ての教育場面での人権を意識した取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての教育活動を通じて人権教育を推進するための職員研修を実施し、生徒の人権教育につなげる。</li> <li>朝読書におけるいじめ関連図書読書の実施。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会やLHRでの啓発に加え、面談週間を設定することで、コミュニケーションを大切にしたい一人ひとりを大切にすることを伝えられた。</li> </ul>
いじめの防止	いじめの未然防止	いじめを許さない集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒主体の取組の推進による情報モラル教育の通年に渡る実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のいじめに対する認識の感度を向上させるために以下の取組を実施する。</li> <li>「いじめを許さない宣言文」や標語等の作成</li> <li>朝読書におけるいじめ関連図書読書の実施</li> <li>生徒主体の取組の推進・情報モラル教育の推進・各種アンケートや面談週間、校内相談体制の積極的な案内</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめを許さない宣言文」を改定した。</li> <li>人権啓発ポスターを掲示する特設スペースを設けた。</li> <li>各学期はじめに面談週間を設定した。</li> <li>各学期に学校生活に関するアンケート（2学期は県指定の心のアンケート）を実施した。</li> </ul>
	いじめの早期発見と適切な対応	校内委員会を中心とした全職員での取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールサイン（いじめ匿名通報サイト等）の積極的周知と、いじめ事案に対する組織的認知と迅速な対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談や各種アンケート等を実施し、いじめの早期発見と速やかな事実の確認にあたる。</li> <li>スクールサイン積極的な周知</li> <li>学期に1回以上のいじめ防止組織会議の開催。</li> <li>被害生徒を守り、加害生徒にも適切に対応する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種いじめ防止の取組は計画的に実施した。いじめ認知事案は2学期末時点で4事案あった（昨年度10事案、一昨年度25事案）。そのうちSNSへの書き込み事案は0事案（昨年度1事案、一昨年度5事案）であった。いじめ匿名サイト『スクールサイン』からの報告はなかった。いじめを許さない雰囲気醸成されつつある。</li> </ul>
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	防災教育の充実	総合型コミュニティ・スクールの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の命を自分で守りぬく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災教育の情報提供。</li> <li>主体的に行動する「気づき、考え、動く」を育成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新年度すぐに、火災及び地震、津波の防災避難訓練を実施した。また、11月には生徒へ事前周知することなくシェイクアウト訓練を実施し、真剣に取り組めた。</li> </ul>
	地域と連携した災害時の連携体制の確立	防災教育への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全を第一に考えた行動の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水俣市や地域住人との合同避難訓練を実施する。</li> <li>職員研修を実施し、生徒の防教育につなげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>水俣市総合防災訓練を本校で実施し、本校職員、生徒のボランティアが参加した。</li> <li>防災避難訓練時にDVDを視聴し、生徒の防災教育につなげた。</li> </ul>
特別支援教育	特別支援教育の理解と推進	教職員の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>合理的配慮を要する生徒に対する知識・技能の向上及び専門性の習得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回相談の実施と、その際の助言を職員間で共有する。</li> <li>県の方針を職員に伝え、合理的配慮を要する生徒についての情報や支援の在り方についての研修を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回相談を実施しなかった。</li> <li>「発達障がい」の特性理解と支援について、外部講師による研修（8/30）を行った。</li> <li>個別の教育支援計画に係る熊本県の方針について職員に説明した。（4/21）</li> </ul>

		特別な支援を必要とする生徒と適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>合理的配慮を要する生徒の把握と、「個別的教育支援計画」の作成と全職員による効果的活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生の情報を早期に把握するため、新入生保護者への気付きアンケートを実施する。</li> <li>生徒理解研修を複数回実施し、担任が持ち得た情報と合理的配慮について、職員間で共有する。</li> <li>保護者同意の個別教育支援計画を作成する。課題解決ミーティングで教科担当者が個別の支援計画を確認する時間を設け、指導に役立てる。</li> <li>学期に1回、課題解決ミーティングを実施し、指導計画の作成、見直しを行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生保護者への気付きアンケートを実施し、入学式前に、新入生の情報を把握し、第1回生徒理解研修(4/7)で情報共有した。気付きアンケートのチェック欄が多いため、どのような特性があるのか端的に把握しやすいうようにすることが課題である。</li> <li>生徒理解研修を(4/7、4/21)実施し、その情報を、個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成・見直しに活用した。</li> <li>個別的教育支援計画・個別の指導計画について作成し、管理職回覧による情報共有、及び、課題解決ミーティング(6/25、12/3、2/15)での活用をした。内容が適切か評価までは至っていないため、評価のしくみづくりをすることが課題である。</li> </ul>
環境・安全 教育の推進	「環境首都水俣」の一員としての環境教育の推進	持続可能な環境活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体性を育む取り組みの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校版環境ISO宣言項目に基づき活動する。毎月エコスクールDayを実施し、生徒が自らの環境への意識や行動を振り返る。エコスクールDayには全校生徒や職員が環境意識を促進できるように、環境委員が校内放送で呼びかけを行う。環境委員が生徒会新聞に「SDGs通信」の記事を担当し生徒に啓発する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月エコスクールDayを実施した。全生徒がチェックシートを記入し、環境への意識や行動を振り返った。また各学級の美化委員・環境委員がチェックシートを集計し、翌月の目標を定め、学級に声かけを行った。</li> <li>環境委員による校内放送を行うことで、全生徒・全職員で活動する意識作りができています。生徒会新聞で「SDGs通信」担当し、何のために環境活動に取り組むのか、行っている活動がどのように社会のためになっているのかという啓発に繋がった。</li> </ul>
		健康な学校生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコスクール活動の拡大と充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内でSDGsについて生徒</li> <li>職員の意識を高める取り組みを行うだけでなく、学校ホームページを活用し、地域に向けて委員会活動を紹介したり、環境についての情報発信をしたりする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイシティブロジェクトに地域の眼科の賛同を得て一緒に取り組み、校内だけでなく地域とともに環境活動を行うことができた。</li> <li>今後校内での活動の意義や内容について、広報誌やホームページで情報発信を充実させることが課題である。</li> </ul>
	健康で安全な学校生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症への注意喚起及び感染経路対策の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス新規感染者の人数(前日分)を昇降口に掲示し、感染防止の意識を高める。</li> <li>教室における二酸化炭素濃度の計測と換気のタイミングを可視化する。</li> <li>検温、マスク着用、消毒の徹底及び、パーテーションの設置箇所を増やす。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の新規感染者数、県内の新規感染者数を毎日更新する事で生徒が現状を把握し、感染防止の意識を高める事に繋がった。</li> <li>各クラスに1台導入し、数値を確認することで換気のタイミングや効果を確認できるようになった。</li> <li>感染防止の標語募集や校内への標語の掲示を行った。昇降口、玄関に非接触式の体温計を導入した。また、各職員室、会議室にパーテーションを設置し安全対策を強化できた。</li> </ul>	
		安全な学校生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員、生徒の安全意識の向上と、校内における事故のリスクの軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間2回、安全点検の実施し、早急に危険箇所を改善する。</li> <li>運動中の水分補給の指示や、劣悪な環境下での運動を制限し、熱中症のリスクを減らす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画通りに実施することが出来た。</li> <li>体育の授業・部活動での水分補給について、水筒の持参や、水分補給の時間を設けて、喉の渇きを我慢しなくて良い環境を作った。しかし、部活動において、時間帯によっては水分補給では間に合わず熱中症の症状が出た生徒がみられた。開始時間や活動内容の工夫が必要。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価

(1) アンケート結果について

①本校は、特色ある学校づくりに取り組み、職員は業務改革等を意識していると思うか。《そう思う(5人)、だいたいそう思う(4人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)》

②本校では、わかりやすい授業、ICT活用を意識した授業が行われているか。《そう思う(2人)、だいたいそう思う(7人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)》

③本校は、保護者・地域に伝える進路実績を残していると思いますか。《そう思う(3人)、だいたいそう思う(6人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)》

④本校では、基本的生活習慣や社会的マナーについて適切な指導がなされていると思いますか。《そう思う(5人)、

だいたいそう思う(4人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)》

⑤本校は、人権問題の学習やいじめ等の未然防止を積極的に進めているとおもいますか。《そう思う(3人)、だいたいそう思う(6人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)》

⑥本校は、環境活動に積極的に取り組み、地域やPTAと連携して活動していると思いますか。《そう思う(9人)、だいたいそう思う(0人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)》

⑦本校は、情報発信に積極的に取り組み、保護者や地域の期待に応える教育活動を行っていると思いますか。《そう思う(6人)、だいたいそう思う(3人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)》

⑧本校は、生徒が生き生きとしている学校だと思いますか。《そう思う(6人)、だいたいそう思う(3人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)》

- ・学校の魅力を伝え、入学者増につなげていく工夫がもっと必要だと思います。日頃から先生方、生徒の皆さんが努力されているのは非常に感じています。もっと水俣高校を知っていただくために、実際に学校を訪れる学校の施設を使った取組を増やせないかと思います。小中学生やその保護者等にとってもっと身近な高校にしていければと思います。
- ・11月に実施した水俣市総合防災訓練に地域住民と連携しながら参加していただいたことは非常に良かったと思います。来年以降の訓練にも、できれば毎年参加していただければと思います。
- ・高校生の防災士資格取得について学校全体で推進していただきますようご検討をお願いします。
- ・本校に入学して良かった点、悪かった点を分析し、今度の学校活動に生かしてもらいたい。
- ・生徒の活動に触れることができる場ができればと思います。
- ・市外の高校に負けないよう魅力のある学校づくりを目指して下さい。
- ・学校だけでは解決できない事を地域・行政と連携して取り組めたらと思います。
- ・1年間生徒たちと接する機会があり、何事にも前向きに取り組む姿が見えました。PTA ももう少し生徒たちに寄り添った活動ができればと思います。
- ・市の広報誌や新聞等で生徒さんの活躍を目にするが、職員の皆様がいろんな所へ情報発信をされていることがとても素晴らしいので、これからも継続してもらいたい。

## 5 総合評価

### (1) 全体について

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、時差登校・短縮授業、学校行事の中止、縮小を余儀なくされた部分もあったが、2学期以降は ICT 機器(端末の一人一台)の充実のおかげで、感染リスクレベルが高いときでもリモート授業やリモート講演・研修等を実施できた。その中で自己評価においては、9個の大項目に対して、28の具体的な目標及び方策を設けて評価を行った。結果はA評価が3個(11%)、B評価が25個(89%)、C評価が0個(0%)、D評価も0個(0%)であった。昨年と比べるとA評価の割合が20ポイント減少し、B評価の割合が18ポイント増加し、C評価の割合が7ポイント減少し、D評価の割合は同じ(0)であった。

### (2) 本年度の重点目標について

#### ①健全な心身の育成

今年度もコロナ禍での「新しい生活様式」の推進を図りながら全職員で基本的な生活習慣の確立と社会規範意識の醸成を行った。情報モラル教育については、1人1台端末の普及もあり、機会ある毎に取り組むことができ、生徒の意識も高まった。SNSの使用の在り方については、生徒指導部の職員を中心に粘り強く指導に当たり、SNS上で目立った「いじめ」や新型コロナウイルス感染症に伴う差別事案はなかった。部活動の振興については、「まん延防止等重点措置期間」が長期化してしまい、公式試合の中止、延期、縮小などで、体力的にも精神的にもダメージは大きかったが、多くの生徒たちが諦めることなく、限られた時間の中で精一杯取り組んでいた。

#### ②確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実

学力保障と学力向上への取組として、宅習・生活の計画と記録調査の実施、公開授業週間の実施、研究授業の実施、授業評価の実施、シラバスの作成等を行った。学校評価アンケートでみると「家庭学習に取り組む習慣化している」の項目では、昨年度より若干であるが生徒の意識は高くなっている。また、「教え方が工夫されていて分かりやすい」の項目では、職員の取組に対する意識に比べて、生徒の受け止め方でみると14%程低い。昨年度と比較すると意識の差は半に縮まっている。

進路実現については、今年度もコロナ禍での対応となったが、オンラインでの企業見学や試験などはスムーズに対応することができた。就職では厳しい状況もあったが12月には殆どの生徒が内定を達成した。進学では、個々の進路目標に応じた指導は勿論のこと、授業研究や入試研究が新しい入試にも対応でき、国公立大学を始め多くの進路実現を果たした。今年度もコロナ禍の中で、外部との交流がある企画が激減したため、校内でできる代替行事を実施し、生徒たちの進路意識が下からぬよう取り組んだ。

#### ③SGH事業の効果的な継承とグローバルリーダーの育成

総合的な探究の時間(SGH事業からの継承について)は、(ア)コロナ感染拡大の影響もあり各種ITC機器の充実と職員の運用力が促進され、オンライン授業や講話が可能になった。(イ)課題研究における材料や構造の選択が潤沢であった。(ウ)各種取組に向けた生徒の外部への移動が柔軟になった。(エ)地域課題にかかわり、外部の専門的知見に出会うことで職員の指導力向上が図られた。(オ)地域課題にかかわることで、生徒の自己有用感が向上した。など成果があった。

国際交流については、今年度も水俣環境アカデミア協定締結先の日越大学(ベトナム)や州立モンタナ大学(アメリカ)とオンラインでの交流を実施することができた。課題研究では、機械科が取り組んだ「鳥獣被害対策プロジェクト」が厚生労働省の令和3年度「地球発!いいもの」に選定されたり、電気建築システム科建築コースの「Wood Connrct Project」ではSDGs 未来都市水俣の市民として、水俣の自然を守り、未来へつないでいく意識の醸成になることを目指し取り組んだ。こうした活動をとおして、生徒の視野が広がり、グローバル人材の育成に繋げることができた。

#### ④保護者や地域社会に信頼される学校づくり

今年度も建築コースの生徒と職員による地元の小学校への「ものづくり教育」、地元中学校への「出前授業」を実施し、水俣高校のアピールを含めた地域貢献ができた。また、総合的な探究の時間での活動、課題研究での活動、部活動生によるボランティア活動など、多くの面で地域社会との交流を進めることができた。

## 6 次年度への課題・改善方策

### (1) 学校経営

募集人員の増加については、今年度もHP(学校紹介動画、質問コーナー、最新の話など)などの広報活動や「総合的な探究の時間(SGH事業からの継承)」活動や専門学科の特性を生かした取組を充実させるなど様々な取組を行ってきた。結果は今年度と同じ人数の新入生を迎えることができた。地域の中学3年生の数が年毎に減少し

ている中で、昨年と同じ人数を維持できたのは、水俣高校の存在を中学生・保護者にアピールできたからではないかと思う。今後も引き続き水俣高校の魅力発信に取り組んでいきたい。

#### (2) 授業改善と学力向上

新学習指導要領の実施にあわせて観点別評価の実施と検討を行う。研究授業や公開授業週間にあわせてスーパーティーチャーや教育センターとの連携を図り、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、生徒の興味関心を高め、分かりやすい授業づくりに努める。また、確かな学力の定着のために保護者との連携を密にし、学年(クラス)だけではなく、各教科の関わりを深める。ICTを使った授業(1人1台端末の活用)の充実

#### (3) キャリア教育の充実

高校3年間を見通したキャリア教育をさらに充実させる。ガイダンス機能と新型コロナウイルス感染症拡大防止等で実施できなかったインターンシップ等の体験活動を実施し、早い時期での職業観、勤労観を育み、生徒一人一人が目的意識を持って日々の活動に取り組む態度を育成する。そのために全職員が全ての教育活動の中でキャリア教育の視点をもって取り組む。

#### (4) 生徒指導の充実

- 交通指導(道路交通法の遵守と校内ルール)の徹底  
自転車での左側通行や一時停止ができていないことや、並進、スマホ運転などの指導を徹底し、生徒の命を守る。
- 情報モラル教育  
SNSの正しい使い方について考えさせる機会を設けると共に、保護者との連携を強化し、家庭においても見守りをしていただけるように取り組む。

- 学校生活における規則の改善  
各規則についてのアンケートを実施し、不合理な箇所の変更や見直しができる環境を整え、改善する。服装頭髪検査の名称を水俣マナータイムとし、マナー教育の機会を増やし、生徒との対話を図りながら心身共に健全な生徒の育成にこれからも努める。

#### (5) SGH 継承と地域連携の推進

「SGHネットワーク」への参加と民間の支援事業の継続を生かし、「総合的な探究の時間」の活動や専門学科の「課題研究」の更なる充実を図り、本校の特徴的な取組として、生徒たちの社会性の向上とグローバルな人材育成に繋がるように努めたい。また、これからも地域の行政、企業、小中学校等との密な連携を図りながら地域に信頼される学校として学校教育全体の充実を図っていきたい。